

## BLM 運動に対するアメリカの公共図書館の反応 —SNS の投稿に注目して—

松田 佳

2020 年に白人警察官が黒人男性を絞殺した事件を機に、黒人に対する暴力や人種差別に抗議する BLM 運動が全米に広まった。各地の公共図書館は声明の発表や、人種差別に関する図書の紹介などを通じて、BLM 運動に対し反応を示した。アメリカの公共図書館は地域社会と密着しているため、本研究では、BLM 運動に対して公共図書館が地域社会からどのような影響を受けているのかについて調査を行った。

本研究では、BLM 運動に対して公共図書館がとった反応が、地域社会とどのように関係しているのかを、SNS の投稿に注目して明らかにすることを目的とした。研究対象は、アメリカ図書館協会とマイアミ・デイド公共図書館システム、シカゴ公共図書館、プリンス記念図書館、ニューヨーク公共図書館、ダラス公共図書館、ヒューストン公共図書館、シアトル公共図書館、カナワ郡公共図書館の 8 館とし、各図書館が所在する地域と図書館の持つ SNS アカウントの投稿を調査した。研究方法は文献調査、ウェブサイト調査を用いた。

調査の結果から、アメリカ図書館協会は BLM 運動に対し、声明を出した日付が比較的遅く、慎重な対応を取っていたことが明らかになった。また、BLM 運動に対し声明を出していた図書館の数には地域差があることが明らかになった。BLM 運動を受け、人種差別に関する図書の貸出が増加するなどの変化があった図書館も存在した。

各図書館の SNS として Twitter の投稿を調査した結果、全体に占める BLM 運動に関連する投稿の割合には、差があることが明らかになった。ニューヨーク公共図書館やシアトル公共図書館、シカゴ公共図書館は、BLM 運動から強く影響を受けていたことが SNS の投稿から明らかになった。カナワ郡公共図書館は BLM 運動に関連する投稿の数自体は少なかったが継続した投稿を行っており、BLM 運動の影響を長期にわたって受けていると推測できる。

過去に BLM 運動や人種差別反対運動が行われた地域、2020 年に BLM 運動が活発に行われていた地域では、公共図書館も BLM 運動に対し積極的な反応をしており、地域社会の動向が公共図書館に影響を与えていることが明らかになった。その一方、その地域における多様性指数や支持政党等の社会的特徴が公共図書館に与える影響は、今回の調査からは明らかにならなかった。

本研究を通して、地域社会が BLM 運動に対する図書館の反応に影響を与えていること、また図書館の対応も地域社会に影響を与えており、地域社会と図書館は相互的に影響を与えていることが解明された。今後、調査対象の図書館を広げて調査することにより、地域社会と公共図書館の異なる関係性や、多様な取り組みを明らかにすることが可能である。また、調査対象の SNS の種類や調査期間を広げることにより、社会正義に関する情報発信において、図書館の多様な取り組みを解明することができる。

(指導教員 吉田 右子)